

プロダクションでも、 レーベルでもなく、 個人としてできること。

坂本龍一と平野友康が、
アーティスト作品で繋がってゆく
参加型の東日本大地震被災地
支援プロジェクトを始動。

この度、坂本龍一と平野友康が発起人となり、被災地の日も早い復旧・復興を支援するためのプロジェクト、「kizunaworld.org」を発表いたしました。2011年3月11日に起きた震災以降、この未曾有で甚大な災害に対し何ができるかと問うたときに、長期的な支援を継続していけることが重要なのではないかと考え、復興を願うみんなの想いが繋がってゆける形とは何かを模索してまいりました。

そこで、『プロダクションでも、レーベルでもなく、アーティスト個人の力でできることをできるかぎり形にしていきたい』という想いから、人と人々が繋がってゆくことで支援の輪が広がることを目的とした「kizunaworld.org」を立ち上げました。目指したのは「一過性ではなく長期間継続できる活動にしてゆくこと」、そして被災地の今に対し「目的と関心を持って支援を届けてゆくこと」です。まず、このプロジェクトの趣旨に賛同してくれるアーティストたちと共に、チャリティー作品への寄付を募り、少しでも多くの支援金が集められるプロジェクトに成長させていきたいと考えています。

最初の作品は、発起人でもある坂本龍一とイタリア人現代美術家ヴァレリオ・ベッルーティ氏の共作であるアニメーション作品「KIZUNA」です。「KIZUNA」とは、ベッルーティ氏が2011年1月に日本で発表した作品タイトルであり、音楽は2010年末、坂本龍一がこのアニメーションのために制作したもので、ベッルーティ氏の被災者支援の一助になればという願いによって本作品の提供が実現いたしました。次に、集まった寄付金は明らかな目的を持ったものでありたいと考え、被災地で普遍的に必要とされるであろうテーマを5つ設け、それらの代表的な団体へ寄付を行っていきます。そのテーマとは、《医療》・《こども》・《食料》・《住宅》・《エネルギー》の5つです。このプロジェクトによって集められた寄付金の全額（決済手数料を除く）を、5つの組織に均等に寄付いたします。

最後に、寄付をいただいた方との繋がりとして、寄付金の透明性を持つことはもちろん、寄付先の活動状況など被災地の復興への道筋を、メールニュースやTwitterを通じて報告していきます。これにより、被災地でどのような支援が必要かを共に考えていける場を設けていきます。時には、Ustreamなどのソーシャルメディアを使い、被災地の今を支援者とともに共有していくことも企画していきます。これらの活動により長期的な関心を持ち、みんなで支援し合えるプロジェクトに成長できるよう取り組んでまいります。わたしたちは「kizunaworld.org」を通じて、アーティストと一人でも多くの個人が繋がり、被災地を巡る5つのテーマと、これからのわたしたちの未来を考えていける環境を提供していきます。

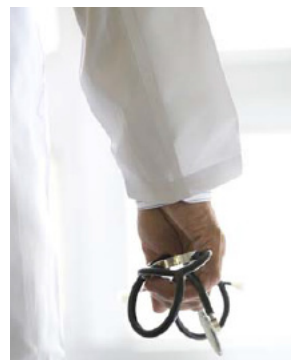
Quality of Life:わたしたちが考える、いま、必要な5つの支援

医療：国境なき医師団

<http://www.msf.or.jp/index.php>

1999 年にノーベル平和賞を受賞した、非営利かつ、国際的な民間の医療・人道援助団体「国境なき医師団（MSF）」。今回の甚大な被害に際し、国際NGOとして最も早く現地で医療救援活動を始めました。被災地での刻々と変わる医療ニーズを調査しながら、被害が大きく病院が機能しないところや避難所など医療設備がない地域を中心に医療活動を行っています。

【寄付金の用途】主に被災地での医療活動費や衛生用品キット等の物資援助等に充てられます。



こども：Save the Children

<http://www.savechildren.or.jp/top/jpn/>

子どもの権利条約を理念とし、子どもの権利の保護を目標として活動しているNGO団体「Save the Children」。今回の震災に対し、被災された子どもたちの保護と心のケアを最優先に、子どもたちが安心と安全を感じられる場所、「こどもひろば」開設のために活動を開始しています。「こどもひろば」は、被災した子どもたちが被災後の環境に適応できるよう、お絵かきや折り紙、粘土など遊びを通した学びや成長の機会を提供しています。

【寄付金の用途】避難所等での「こどもひろば」の開設・運営等に当てられます。



食料：被災地NGO 協働センター／野菜サポーター

<http://www.pure.ne.jp/ngo/>

阪神淡路大震災直後に立ち上げられた「被災地NGO 協働センター」。これまで主に国内の様々な災害支援を行ってきた経験を生かし、今回の震災では、「被災地から被災地を支援しよう！」というコンセプトのもと、昨年の九州南部・新燃岳の噴火により被害を受けた宮崎県産の野菜を買い付け、その野菜を利用して被災地での炊き出しを行っています。

【寄付金の用途】被災地での炊き出しに使う宮崎県産の野菜の買付け資金として利用されます。



住宅：ボランティア建築家機構 坂茂／東日本大地震 津波 支援プロジェクト

http://www.shigerubanarchitects.com/SBA_NEWS/SBA_news_5.htm

阪神淡路大震災時、神戸にロール状の紙管を使い、「紙の建築」と称される教会と仮設住宅を建設した世界的建築家・坂茂氏。トルコ、インド、スリランカ、ハイチなど、地震や津波に見舞われた世界の被災地でも仮設住宅の建設にたずさわった坂氏は、今回の震災にあたり「東日本大地震 津波 支援プロジェクト」を設立。被災され、避難所で数ヶ月間プライバシーのない生活を強いられる方々の精神的負担を和らげることが急務と考え、これまで避難所のために作ってきた簡易間仕切りシステムを改良し設置する活動のほか、仮設住宅の住環境向上のためのサポートも行っています。

【寄付金の用途】避難所での「簡易間仕切り」の設置、仮設住宅の住環境向上のために利用されます。

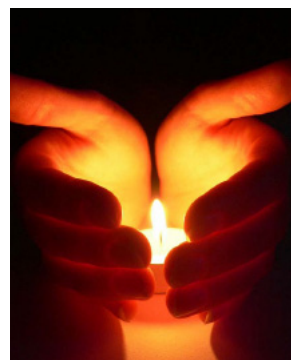


エネルギー：環境エネルギー政策研究所／つながり・ぬくもりプロジェクト

<http://www.isep.or.jp/>

環境エネルギー政策研究所（ISEP）は、持続可能なエネルギー政策の実現を目的とし、地球温暖化対策やエネルギー問題に取り組む環境活動家や専門家によって設立された団体です。自然エネルギーや省エネルギーを推進するこのISEPは、今回の震災にあたり「つながり・ぬくもりプロジェクト」を立ち上げ、電気、ガス、水道などライフラインの復旧の見通しの立たない多くの避難所で、自然エネルギーを活用した電気、お湯、お風呂を被災された方々にお届けする活動を行っています。

【寄付金の用途】避難所や診療所、仮設住宅などへの太陽光発電システムの設置、太陽光温水器、移動薪ボイラー車による巡回お風呂サービスに利用されます。



発起人：坂本 龍一／音楽家

Ryuichi Sakamoto

Profile

1978年『千のナイフ』でデビュー、同年YMOに参加。YMO 散開後、数々の映画音楽を手がけ、作曲家としてアカデミー賞を受賞するなど世界的な評価を得ながら常に革新的なサウンドを追求している。1999年制作のオペラ『LIFE』以降、環境・平和・社会問題に言及することも多く、9・11同時多発テロをきっかけに、論考集『非戦』を監修。同年、自然エネルギー利用促進を提唱するアーティスト団体『artists power』を創始した。2006年六ヶ所村核燃料再処理施設稼働反対を表明し『stop-rokkasho.org』を開始、2007年7月には有限責任中間法人『more trees』の設立を発表し、温暖化防止についての啓蒙や植樹活動を行うことを表明、また同年7月16日に発生した新潟県中越沖地震で、柏崎・刈谷原発が大きく損傷した際にも『artists' power』として廃炉を訴える署名サイト『Unplug Kashiwazaki-Kariwa / おやすみなさい、柏崎刈羽原発』を開設するなど、『脱原発』を求める地道な活動を継続している。また、2006年新たな音楽コミュニティの創出を目指し『commons』を設立。音楽発信の新たな形もつねに模索している。NY在住

Message

自然の強大さに比して、なんと私たちの存在の弱いことか。私はまだそのショックから立ち直れないでいます。しかし自然の脅威にのくことは必要です。私たち自身が自然の一部であり、また私たちは自然の中で生きていることを、しばしば忘れがちだからです。まるで自分たちが自然の外に立ち、自然を経済の資源であり、投資の対象であるかのように錯覚しがちです。

もう一度、私たちの遠い祖先が氷河期の洞窟で、寒さに震えながら身を寄せ合いお互いを暖め合いながら、ひととき神話を語り歌を歌ったように、自分たちの脆弱さにも関わらずしたたかに生き抜いてきた感性と技術と、助け合いの絆を取り戻したいと思います。



発起人：平野 友康／メディアクリエイター

Tomoyasu Hirano

twitter : @dsHirano (<http://twitter.com/dshirano>)

Profile

1998年株式会社デジタルステージを設立。代表取締役。

ソーシャルメディアの未来をつくるソフトウェアやプロジェクトを企画プロデュースする。代表作のWeb制作ソフト『BiND for WebLiFE*』、VJソフト『motion dive』シリーズは、グッドデザイン賞や文化庁メディア芸術祭の特別賞を受賞。プロダクトとともに新しいカルチャーシーンを築いている。

一方で、2010年からはUstreamとTwitterを始めとするソーシャル・メディアに注目。『共有体験』のおもしろさを具現化するために、2011年1月には、坂本龍一氏とともにskmtSocialプロジェクトを立ち上げ、同氏のピアノソロツアーを全世界に無料発信した。75カ国で延べ20万人以上が視聴に参加し、音楽の新しい楽しみ方を提案した。

Message

311から今日まで、悲しみの連鎖はまだ止まることなく、生き方そのものに、大きな変化と覚悟が求められているように感じています。僕は被災地の方々の現実を前に、ただただ言葉を失い、そして今この瞬間も、どんな行動をすれば良いのか、正直、分からないままです。そんな中でも、僕にはみんなが集う『場』をつくることはできます。

そこで坂本龍一さんと話し合い『KIZUNA』というたったひとつの作品から、このプロジェクトの一步を踏み出すことにしました。まずはひとつの作品からスタートし、やがてこの場にいくつかの作品が集い、そしてそれらの作品に共感してくれた方々の力が、被災地の方々の支えに繋がればと思っています。

このあと、復興に至るまでの道のりがどれだけ長いのか、今の段階では想像もつきません。だからこそ僕らは、このささやかな支援を一日でも長く続けていきたいと思っています。アーティストという＜個人＞と、あなたという＜個人＞が繋がることで、できること。このプロジェクトの輪がひとりでも多く広がることを、願っています。



寄付の概要

受付期間	2011 年 4 月 27 日（水）～ 2011 年 12 月 31 日（土）※延長の場合もあります。 第一期：2011 年 4 月 27 日（水）～ 6 月 30 日（木） 第二期：2011 年 7 月 1 日（金）～ 9 月 30 日（金） 第三期：2011 年 10 月 1 日（土）～ 12 月 31 日（土）
寄付先	下記の候補団体に対して、均等に寄付を行います。 ・国境なき医師団【医療支援、生活・物資支援】 ・Save the Children【生活・物資支援、子ども支援】 ・被災地 NGO 協働センター【野菜をはじめとする食料支援、避難所運営】 ・ボランタリー建築家機構 坂茂／東日本大地震津波支援プロジェクト 【避難所用簡易間仕切りシステム設置による支援】 ・環境エネルギー政策研究所 つながり・ぬくもりプロジェクト 【太陽光・太陽熱・バイオマスなどによる被災地支援】
報告	kizunaworld.org の公式サイトで随時、実施報告をいたします。
寄付の方法	PayPal からの寄付（決済）のみ
寄付金額	1 口：1,000 円、2 口：2,000 円、5 口：5,000 円、10 口：10,000 円、20 口：20,000 円
公式サイト	http://kizunaworld.org/
公式ツイッター	@kizuna_w (http://twitter.com/kizuna_w)
主催	kizunaworld.org project
運営	kab inc., digitalstage inc., commons
本件に関する問い合わせ先	commons 中城 Email: bin@commons.com Tel:03-5413-8647 デジタルステージ 広報：藤川 Email: pr@digitalstage.jp